

中国の旧正月

塚田 實

今年の旧正月は二月十二日で、中国では春節と呼び、一年で最も盛大に祝う祭日だ。私は二〇〇五年二月一日付けて中国駐在となり、一月三十一日北京に赴任した。この年の春節は二月九日だった。

赴任して最初の週末、駐在員が北京を観光案内してくれて、故宮や北京の古い町並み「胡同」などを歩いた。胡同には昔ながらの風情を残す四合院があり、家々には「福」の字を書いた赤色の紙が上下逆さまに貼ってある。「福」を逆さまにする「倒福」の「倒」は、四声は違うが、やはり「到」と発音する「到福」に通じ、この家に「福が来る」という意味だ。街は赤色の飾りで満ち溢れる。中国語の「紅」は赤色の意味の他「順調や幸運」などの意味もあるそうだ。

二月九日の旧正月は、特に予定はなく静かに過ごすそうと思っていたが、偶々親しくなった某社北京事務所長のSさんから、「馴染みのお店のママと初詣に行くので一緒にませんか」とお誘いいただいた。

三人は地下鉄建国門駅で待ち合わせ、混み合う地下鉄に乗り、雍和宮駅で降りた。雍和宮は清朝康熙帝が次の雍正帝のために建てた宮殿で、後にチベット仏教寺院となった。お寺は大勢の参拝客で溢れ、皆長い線香をもって、身体を「く」の字に折り曲げてお祈りする。

お参りを終えると、近くの地壇公園を訪れた。ここは北京最大の縁日「庙会」が開催されるところで、沢山の屋台が出て、あちこちで大道芸をやっている。華やかな雰囲気にとっぷり浸った。しかし、気温はマイナス六度でとても寒く、耳がちぎれように痛い。

「廟会は堪能したので、少し暖まりましょう」とタクシーを捕まえ、北京飯店の日本料理屋「五人百姓」に駆け込み、熱燗で身体を温め、すき焼きで腹を満たした。

春節は毎年延べ三十億人が移動すると言われているのに、今年はコロナのお陰で移動は自粛するよう通達が出た。来年以降、中国もコロナを克服し、賑わいの春節を迎えられることを願っている。